

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）実現のために
「メリハリのある働き方の実現」

「19時前退社」励行で働き方を見直し 社長がCWOとして“会社の本気度”伝える

CASE 4 株式会社大和証券グループ本社



株式会社大和証券グループ本社
 人事部 人事課
 兼 ワーク・ライフ・バランス推進課 次長

池田 洋平氏

——「19時前退社」の励行に努めておられますね。

池田 ● 以前は証券業界には朝早くから夜遅くまで働くという風土があり、大和証券グループもその例に漏れませんでした。これを変えようと、2007年6月から取り組みを始めました。

ただ、長年の習慣を変えるのは容易ではありません。当初は管理職層からも反発がありました。状況を変えるにはまず、「働き方の見直しの必要性」を全員で共有することが大切であると考

え、社内セミナーなどを通じて繰り返しその意義を社員に伝えました。また、鈴木社長自らがCWO(Chief Work-life-balance Officer)に就任していますので、社員に伝わる「本気度」が大きく違うのではないかと考えております。——その成果はいかがでしょうか。

池田 ● 限られた時間の中でどうすれば結果を出すことができるか——。一人ひとりがその日の計画を綿密に練り、会議時間の短縮を心がけるようになるなど、いろいろな工夫が部門ごとに見られるようになってきました。

——19時前退社の励行以外にも様々な取り組みをされていますね。

池田 ● 2008年4月に「ワーク・ライフ・バランス推進室（現推進課）」と「ワーク・ライフ・バランス推進委員会」を設置し、「年休取得促進」「家族の職場訪問」の実施など、社員がより健康で豊かな生活を実現できる環境作りをバックアップしています。

——そもそも会社がワーク・ライフ・バランス(WLB)を推進する意義はどこにあるのでしょうか。



鈴木 茂晴氏

株式会社大和証券グループ本社
 代表執行役社長

大和証券グループが目指すWLBとは

よく働き、よく楽しむ！
 仕事時間と自分時間
 会社も家族のパートナー
 ～いきいき社員を本気でサポート～

池田 ● 会社が持続的に発展するためには、社員の働き方も持続的でなければなりません。社員が高いモチベーションを持って仕事を続けるには、仕事以外の時間の充実も不可欠なのです。

——今後の目標は？

池田 ● 社員のモチベーションアップ、生産性の向上、優秀な人材の確保などWLBは企業にとっても数多くのメリットがあります。それを社員が実感でき、「働きがいのある会社」と感じてもらえるよう、取り組みを進めていきたいと考えています。

WLB支援に取り組む 10社の事例を連載中！

※（ ）内は掲載(予定)号

「休暇の取得促進」

株式会社電通 (10/5号)
 鹿島建設株式会社 (10/12号)

「メリハリのある働き方の実現」

株式会社日立製作所(10/19号)
株式会社大和証券グループ本社 (今回掲載)
 全日本空輸株式会社 (11/2号)
 キヤノン株式会社 (11/9号)

「仕事と育児・介護の両立支援」

三井化学株式会社 (11/16号)
 日産自動車株式会社 (11/23号)
 株式会社高島屋 (11/30号)
 住友商事株式会社 (12/7号)

今回の
 ポイント

会社が持続的に発展するためには
 社員の働き方も持続的でなければならない